

一般助成(日本国内各地の災害被災者の支援や災害地復興のための支援)

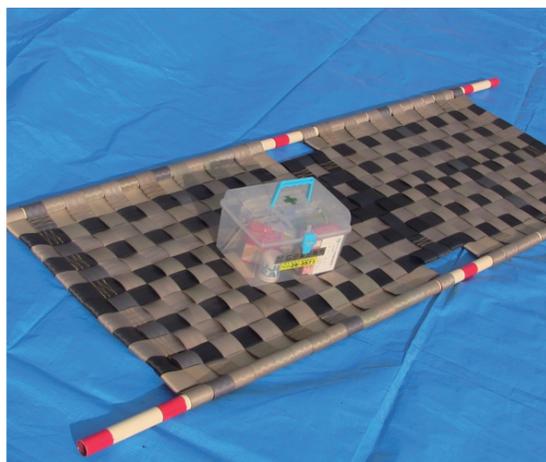
「廃棄されたエアバッグで水難被害者ゼロを目指す活動」事業

大規模な自然災害による被災者を出さないために 自動車装備品を再利用した防災グッズを製作

日本各地で気候変動による大規模な自然災害が増えている。災害から命を守るということは社会問題になっているが、一人でも多くの命を助けたいと考え、破棄された自動車のエアバッグを活用した救命浮輪を製作し、良好な自然環境の保全・継承にも取り組んでいる。



エアバッグをリサイクルして製作した救命用浮輪



シートベルトをリサイクルした救命担架

廃棄されるエアバッグやシートベルトで 水難被害を防止するための救命浮輪を

日本海側屈指の港町として発展した山形県酒田市に拠点を置くNPO法人「みなと研究会」は、豊かな自然に恵まれた海岸や港などを舞台に、保全と利用を調和させた環境整備の推進に努めることで、健全で快適な自然環境を未来に引き継ぐことを目的に活動している団体である。

近年、人知を超えるような大規模災害が国内外で頻発している。異常な気候変動によって、豪雨や大型台風の発生が多くなり、河川の氾濫、防波堤の決壊などによる水難事故が増え、多くの方々が亡くなっている。そうした状況の中で、災害から命を守ることが喫緊の社会的課題にもなっている。そのため同法人では、「一人でも多

くの人や命を助けたい」という考えのもと、やはり社会的課題の一つとして挙げられている「ごみ減量」とリンクさせ、水難被害を防止するための事業に取り組むことにした。

この事業の要となるのが、自動車に一般的に装備されているエアバッグやシートベルトである。なかでも日本製のエアバッグやシートベルトは材質もよく、強度も抜群だが、廃車とともに廃棄されることが多い。これは極めてもったいないことであり、これらを再利用できれば、最近話題となっている循環型の持続可能な社会をつくるうえでも寄与することになる。そこで同法人では、廃棄された自動車のシートベルトやエアバッグを活用した「救命浮輪」を防災グッズの一つとして考案・作成し、自然災害による水難被害の防止に役立てることにした。交通事故から人の命を守って来

たシートベルトやエアバッグを水害から人の命を守る浮輪とした。

試作品の製作や耐久テストを経て 救命浮輪の本格的な製作に着手する

同法人では、2019年6月に試作品の発表会を開催し、さらに2020年3月にはその試作品を実際に海上に浮かべて耐久テストを実施した結果、耐久性や安全面などで問題はなかったという。それを受け、同法人では救命浮輪の本格的な製作に着手することにした。2021年4月にはハローワークを通じて工業ミシンを扱える従業員を確保し、工業ミシン点検調整、エアバッグ糸抜き、救命浮輪型紙作り、クルマのハンドルからのエアバッグ取り外し作業、救命浮輪製作、救助ヘリで水難被害者を吊り上げる際になくはならない救命具の一種であるエバックハーネスの型紙作りや製作、要介護者の安全対策として必要となる救命浮輪

へのシートベルトの取り付けなどの作業を実施した。

同法人代表理事の守屋元志さんは、「廃棄されたエアバッグやシートベルトを何枚も縫い合わせるため、工業ミシンの調整、ミシン針の交換などに予想以上の費用がかかりましたが、POSCの助成のおかげで手慣れた職人を雇用できたこと、見本とするためのエバックハーネスの現物を購入できたことが幸いでした」と話す。災害時に「少しでも命の助かる行動を」と呼びかけることはあっても、体力の弱い方や要介護者の方が実際に利活用できる防災用品は極めて少ないため、廃棄されたエアバッグやシートベルトをリサイクルした防災用品は画期的である。昨年度、同法人では、この救命浮輪の使い方などを紹介するワークショップを酒田市内の障がい者施設などで開催することになっていたが、新型コロナウイルスの影響で開催延期になったという。感染防止へ細心の注意を払いながら、後日、ワークショップが開催されることを願いたい。



浮き輪にエアバッグの布を覆い、つかみやすいようにシートベルトの取っ手をつけた



エアバッグ・シートベルトをリサイクルして製作したエバックハーネス

助成団体:特定非営利活動法人 みなと研究会

<http://minato.yamagata-npo.net/>



新型コロナで開催延期したワークショップに再チャレンジ!

助成事業の報告書をまとめている最中にも、大きな地震が起きました。災害は人間の都合には合わせてくれません。防災の予防、準備も一つではなく、いろいろな方法があると考えます。誰かがやってくれるだろう、ではダメです。自分の命は自分で守るのが基本です。新型コロナの感染状況を踏まえながら、今年度、救命浮輪のワークショップに再チャレンジしたいと思います。

特定非営利活動法人 みなと研究会
代表理事 守屋 元志さん